

CISMOR Young Scholars' Workshop  
CISMOR 一神教学際研究会 2021-1

2021年5月15日(土)

オンラインワークショップ (ZOOM platform)

プログラム

13:00-13:05 開会の挨拶 - アダ タガー・コヘン

同志社大学神学研究科教授、一神教学際研究センター センター長

【第一部】司会: 北村 徹 一神教学際研究センター特別研究員、神学部嘱託講師

- 日本語発表 -

13:05-13:35

辻坂真也 同志社大学神学研究科博士後期課程

「古代メソポタミアの王権におけるエンリル」

コメンテーター 森 若葉 先生

13:35-14:05

新井雅貴 同志社大学神学研究科博士後期課程

「領地の描写における集団の名称としての「レファイム」」

コメンテーター 渡辺 和子 先生

14:05-14:35

長谷部貴俊 グローバル・スタディーズ研究科博士課程

「アフガン和平問題におけるローカル・オーナーシップの課題：アフガン市民社会の役割を中心に」

コメンテーター 西川 由紀子 先生

休憩: 14:35-14:45 (10分)

【第二部】司会: アダ タガー・コヘン 神学研究科教授、一神教学際研究センター センター長

- 英語発表 -

14:45-15:15

長砂 翼 同志社大学神学研究科博士前期課程

Ze'ev Jabotinsky and the Discussion on Racial Issue: Based on his reflections on the 1910 racial incident of "Johnson-Jeffries Riots"

コメンテーター ドロン B. コヘン先生

15:15-15:45

劉 敬徳 同志社大学神学研究科博士前期課程

Race and Faith: Reshaping the Church Anti-Semitism after *Nostra Aetate*

コメンテーター 三宅 威仁 先生

15:45-15:50 - 閉会の挨拶 アダ タガー・コヘン

同志社大学神学研究科教授、一神教学際研究センター センター長

## コメンテーター

森 若葉 国士館大学イラク古代文化研究所。共同研究員、CISMOR リサーチフェロー  
渡辺 和子 東洋英和女学院大学・名誉教授、CISMOR リサーチフェロー  
西川 由紀子 同志社大学グローバル・スタディーズ研究科・教授、CISOMR リサーチフェロー  
ドロン B. コヘン先生 同志社大学神学研究科・嘱託講師、CISMOR リサーチフェロー  
三宅威仁 神学研究科・教授、CISMOR リサーチフェロー

\*メインコメンテーターを指名させていただいておりますが、他の方の発表へのコメントも歓迎いたします。

## 要 旨

### 第 1 部

#### 辻坂 真也 Tsujisaka Shinya

古代メソポタミアは、紀元前 2 千年紀の中頃まで、各都市が各々の支配者を擁する、都市国家体制を敷いていた。この体制において、各都市にはそれぞれ重要な神が存在し、王は自身の都市神を崇敬し、自身の王権の正当性に利用した。しかし都市国家体制であったにも関わらず、ニップールの都市神であるエンリルが、その他の都市の王へ、王権を授与するという役割を得ていた。本研究は、神エンリルが如何にこの役割を得、そして、どのように王権に利用されていたのかを明らかにする。

#### 新井 雅貴 Arai Miyaki

領地に関する記述におけるレファイムという名称は、イスラエルに敵対する集団に対して冠せられる。創世記 14 と申命記 3、ヨシヤ記 12-13 章では、レファイムはバシャン地域の住民である一方で、申命記 2 章においてはその地域ではなく、背が高いという特徴をもつ他の部族と同一視される。また、地名としての「レファイム谷」は戦争の舞台として言及される。本研究では地理関係を辿りつつ、イスラエルの敵というレファイムの特徴を確認する。

#### 長谷部貴俊 Hasebe Takatoshi

本発表ではアフガニスタンを取り上げ、時間軸としては対テロ戦争開始後に焦点をあてる。基礎サービスなど一定の向上（基礎教育の普及、公的医療サービスの普及）があったとはいえ、大規模な軍事支援と民生支援が投入されたにも関わらず、治安が悪化しており、外国軍撤退後アフガニスタンは内戦に突入するだろうという声も多い。その失敗の理由は何か。大国の介入による国づくりが、なぜこれまで機能しなかったのかを検討しつつ、これまで十分に研究されてこなかったアフガン市民社会の役割について検討する。

## 第 2 部

長砂 翼 Nagasuna Tsubasa

On the 4th of July of 1910, brutal riots later called “Johnson-Jeffries Riots” took place against African-American (Black) citizens. On that day, a famous black boxer defeated another famous white boxer and that match result caused white’s riots. This incident reflected a racial discrimination at its roots.

Jabotinsky was informed of that incident through an article in Russkiye Vedomosti. In response, he wrote his opinion in sarcastic tone in the Odesskie Novosti on July 18th. This article shows how Jabotinsky strongly opposed racial discrimination. This presentation will reveal the view of Jabotinsky on that racial incident while exposing the composition of his own character at that time.

劉 敬德 Liu Jingde

Nostra Aetate promulgated a revolutionary shift in the Catholic church theology, opposing her old doctrines and acknowledging that Jews are a salvific figure which remain in a covenantal relationship with God. However, this shift causes a deep tension and debate among Catholic church leaders and members, that continues to haunt not only the Catholic Church but also Christianity in general.

This essay will try to examine the Catholic appropriation of racial Anti-Semitism on a broad perspective of positions, and try to challenge the traditional distinction between Catholic anti-Judaism and modern Anti-Semitism.

以上